

農推第1765号
平成29年7月14日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス(7月)

大阪府内の7月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
蒸し暑い日が続く時期です。作業時に熱中症にならないよう十分ご注意ください。
また、例年、梅雨明け後からハダニ類などの害虫が増加しますので初期防除に努めましょう。
高温時の薬剤散布は葉害を起こしやすいので、散布は涼しい時間帯に行ってください。
夏休みに入るとほ場周辺で遊ぶ子供も増えますので、農薬散布時は、いつも以上に気をつけましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。
- 新たな農薬の評価手法(短期暴露評価)が導入されることに伴い、登録変更(変更申請中のものを含む)によって、使用が制限される農薬がありますので注意してください。

詳しくは、販売店で提供されるチラシ等や下記ホームページを確認してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ 防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

◎ 短期暴露評価により変更される農薬の使用法の周知等について」
http://www.jppn.ne.jp/osaka/H27nd/ARfDtutu/ARfDH27_top.html

目次

1	水稻	P. 1~2
2	果樹(ぶどう、もも、温州みかん、いちじく、果樹類全般)	P. 3~6
3	野菜(なす、あぶらな科野菜)	P. 7~9
4	きく	P. 10~11
5	野菜類・花き類全般	P. 11

水稻

7月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻		いもち病				
				紋枯病		
				縞葉枯病		
		セジロウンカ				
		ニカメイガ(ニカメイチュウ)				

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆発生が見込まれる場合には オリゼメート粒剤、コラトップ粒剤、フジワン粒剤等を散布する。
- ◆発生を認めたら、ブラシンフロアブル等を散布する。

紋枯病



特徴

- ◆高温(30~32度)多湿時に多発する。
- ◆窒素過多、密植、分けつ多で発病が助長される。

防除のポイント

- ◆過繁茂にならないようにする。
- ◆穂ばらみ期から出穂期にかけてリンパー粒剤を散布する。
- ◆出穂4~2週間前にモンカット粒剤を散布する。
- ◆発生を認めたらバリダシン液剤5等を散布する。

縞葉枯病（ヒメトビウンカ）



ヒメトビウンカ（雌成虫）※

特徴

- ◆ヒメトビウンカにより媒介される。
- ◆生育初期に発病すると、葉が「こより状」に巻いて垂れ下がり、その後枯れる。

防除のポイント

- ◆ヒメトビウンカの防除を徹底する。
- ◆発生が多い場合は、アプロード水和剤（幼虫のみ）、スタークル（アルバリン）粒剤、トレボン粒剤等を散布する。

セジロウンカ



セジロウンカ（幼虫）※

特徴

- ◆梅雨時期の気象条件により、風によって海外から多数飛来し、急激に密度が高まる恐れがあるので、こまめに発生動向を注意する。

防除のポイント

- ◆薬剤抵抗性の出現を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ◆トレボン粒剤、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤などを散布する。

ニカメイガ（ニカメイチュウ）



特徴

- ◆発蛾最盛期
越冬世代成虫：6月下旬～7月上旬
第1世代成虫：8月下旬～9月上旬

防除のポイント

- ◆発生が多い場合には、発蛾最盛期からその7日後頃までにパダン粒剤4などを散布する。
- ◆中山間地など田植えの特に早い地域では、発蛾最盛期が早くなる。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jpnn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jpnn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

果樹

7月前半の病害虫発生状況

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			晩腐病		
			べと病		
			チャノキイロアザミウマ		
もも			シンクイムシ類		
			クビアカツヤカミキリ(新規発生)		
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
			カイガラムシ類		
いちじく			疫病		
			アザミウマ類		
果樹類全般			果樹カメムシ類		

ぶどう

晩腐病



晩腐病※

特徴

- ◆糖度が高くなった収穫間際の果実で発生する。
- ◆果実に雨が当たると発生しやすい。

防除のポイント

- ◆適切な換気やマルチングを行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆発生を認めたら、**オンリーワンフロアブル**(前日まで)などを散布する。

※原図:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図:大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

べと病



特徴

- ◆雨が多いと発生しやすいので、梅雨明けが遅れるとまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要
- ◆予防的にICボルドー66D、ICボルドー48Q、ストロビードライフロアブル(14日前まで)、レーバスフロアブル(7日前まで)などを散布する。
- ◆農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。
- ◆多発して落葉すると樹勢が低下し、次年度にも影響するので、収穫が終わった園もしっかり防除する。

チャノキイロアザミウマ



被害果実

特徴

- ◆巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きいので注意する。

防除のポイント

- ◆コルト顆粒水和剤(前日まで)、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤(前日まで)などを散布する。

注)コルト顆粒水和剤を幼果期以降に使用する場合は、果粉の溶脱を生じるおそれがあるので注意する。

もも

シンクイムシ類



被害果実

特徴

- ◆果実に食入するシンクイムシ類にはナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆モスピラン顆粒水溶剤(前日まで)、サムコルフロアブル10(前日まで)などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。(http://www.jpnn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

クビアカツヤカミキリ



成虫

フラス

特徴

- ◆成虫3～4cm。全体は光沢ある黒色で、前胸は明赤色。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。
- ◆成虫は6～8月に出現、幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。
- ◆うどん状のフラス(木くず・糞・樹脂の混合物)がある穴には幼虫がいる可能性が高い。

防除のポイント

- ◆成虫は見つけ次第、捕殺する。
- ◆うどん状フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**(前日まで) **ペニカカミキリムシエアゾール**(前日まで)を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆株に4mm目ネットを樹に巻き付け、羽化した成虫を閉じ込める。ネット設置後も見回り捕殺する。

温州みかん

黒点病



特徴

- ◆梅雨期で降雨が多くなると発生が増加し、広がる。

防除のポイント

- ◆**ジマンダイセン水和剤**(30日前まで)、**ペンコゼブ水和剤**(30日前まで)などを散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、両剤とも、かんきつ(みかんを除く)では収穫90日前までなので注意する。

ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)



ナシマルカイガラムシ※

特徴

- ◆日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多く発生する。

防除のポイント

- ◆幼虫発生期に**スプラサイド乳剤40**(14日前まで)等を散布する。
- ◆スプラサイド乳剤40はかんきつ(みかんを除く)では収穫90日前までなので注意する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

いちじく

疫病



疫病※

特徴

- ◆雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆雨水の跳ね上がりなどで伝染するので、敷きわらやマルチを行う。
- ◆ランマンフロアブル(前日まで)レーバスフロアブル(14日前まで)等を散布して防除する。

アザミウマ類



被害果実

特徴

- ◆果実内に侵入し食害する。

防除のポイント

- ◆園地周辺の除草を行う。
- ◆ディアナWDG(前日まで)、スピノエース顆粒水和剤(前日まで)などを散布する。

果樹類全般

カメムシ類



クサギカメムシ

特徴

- ◆もも、うめ、かき、ぶどう、みかんなどの果実に傷をつける。

防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を確認した場合はアディオンの乳剤(かんきつ14日前まで、もも7日前まで、かき7日前まで)
スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤
(かんきつ前日まで、もも前日まで、かき前日まで)などを散布する。
注) 作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

野菜

7月前半の病害虫発生状況

品目	程度	程度				
		少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病			
			灰色かび病			
				うどんこ病		
				アザミウマ類		
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)			コナガ			
				ハイマダラノメイガ		

なす

すすかび病



すすかび病

特徴

- ◆ハウスを閉め切り湿度が上がると発生しやすくなる。

防除のポイント

- ◆適切な換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆発生前に、ベルコート水和剤（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を、発生を認めたら、プロポーズ顆粒水和剤（すすかび病）（前日まで）、カンタスドライフロアブル（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を散布する。

灰色かび病



特徴

- ◆過湿で過繁茂になると発生しやすくなる。
- ◆開花が終わった花がらから感染が始まることが多い。

防除のポイント

- ◆発生前に、フルピカフロアブル（前日まで）、ボトキラー水和剤（発病前～発病初期、日数制限なし）を、発生を認めたら、セイビアーフロアブル20（前日まで）やゲッター水和剤（前日まで）、ピクシオDF（前日まで）などを散布する。

うどんこ病



特徴

- ◆日照不足、乾燥条件下で多発する。

防除のポイント

- ◆発生前に、ベルコート水和剤（前日まで）、フルピカフロアブル（前日まで）を、発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤（前日まで）やアフエットフロアブル（前日まで）などを散布する。

アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ・ミカンキイロアザミウマ）



ミナミキイロアザミウマ※

特徴

- ◆高温小雨で増えやすい。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モベントフロアブル（前日まで）、プレオフロアブル（ミナミキイロアザミウマ）（前日まで）、ディアナSC（前日まで）を散布する。

メモ

- ◆ソルゴー囲い込み栽培の場合は、天敵に影響の少ない剤（プレオフロアブル（前日まで）等）を使用すると、天敵による防除効果がより高まる。

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

コナガ



成虫※



幼虫※

特徴

- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆定植前灌注処理あるいは定植時粒剤施用と、本ほでの散布薬剤は異なる系統を使用し、同じ系統の薬剤は連用しない。

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)



幼虫*

特徴

- ◆8月に突然発生量が急増することがある。

防除のポイント

- ◆被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。
- ◆セル成型育苗トレイに**プレバソンフロアブル5**（キャベツ、はくさい）等をかん注するか、**プリンス粒剤**（キャベツ、ブロッコリー）等を施用する。

きく

7月前半の病害虫発生状況

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく			白さび病		
			黒斑病・褐斑病		
			アザミウマ類		

白さび病



特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
- ◆被害葉は取り除いて処分する。
- ◆ストロビーフロアブル等を散布し、予防に努める
- ◆発生を認めたら、トリフミン乳剤を散布する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿条件下では薬害の恐れがあるので使用しない。
また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

黒斑病、褐斑病



黒斑病*

特徴

- ◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除いて処分する。
- ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿条件下では薬害の恐れがあるので使用しない。
また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ※

特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病（TSWV、CSNV）を媒介する。

防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、**ディアナSC**、**アフターム乳剤**（ミカンキイロアザミウマ）などを散布する。

野菜類・花き類全般

7月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類				オオタバコガ		
花き類(露地)						

オオタバコガ



なすの花に寄生するオオタバコガ幼虫

特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆発生を認めたら、**プレオフロアブル**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、**アニキ乳剤**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布する。
- ◆発生予測モデルでは、本年第1世代成虫の発生ピークは7/4頃と推定される。従って幼虫の防除適期はその7～10日後の7月中旬と予想される。